



# れんげそう

令和7年4月7日  
福生第五小学校  
学校通信第572号

## 思いやり

校長 泉田 巧人

春の暖かな日差しの中、3月25日(火)に50人の卒業生が、本校から巣立っていきました。5年生が学校の代表として卒業式に参列し、来年度の最上級生として、福生第五小学校の伝統や「やさしい学校」づくりのバトンを受け継ぎました。

そして本日、校庭の桜もお祝いするように満開となる春のよき日に、36人の元気いっぱい的一年生を迎え、入学式を無事に挙行できましたことに感謝申し上げます。新入生の子どもたちは、これから始まる小学校生活に期待を膨らませ目をキラキラ輝かせている様子が見て取れました。また、始業式を迎えた在校生も学年が一つ上がり、全校302人で令和7年度が始まります。お子様の御入学、御進級おめでとうございます。一人一人が目標をもち、たくさん挑戦する一年にしてほしいと思います。



多摩川の桜 (福生桜まつり2025)

さて、昨年度の本校のテーマは「やさしい学校」づくりでした。子どもたちに、「『やさしさ』とは」を、常に投げかけて進めてきました。子どもたちに、もっと相手の思いを受け止め気持ちを汲み取り、相手の立場になって考え行動する力を身に付けてほしいと思いました。そこで、今年度の本校のテーマは「やさしい学校 第二章 ~思いやり大作戦~」とし、「やさしい学校」づくりを継承しつつ、「思いやり」にも焦点を当て、学校経営方針に「思いやりや優しさ等の心の育成」を位置付け、取り組んでいきます。「思いやり」は、思いを向ける相手等の対象があるからこそ成り立つものだと思います。人は一人一人の考えや感じ方、状況等が違います。自分の気持ちや考えだけで行動してしまうと押しつけになる場合があり、「思いやり」ではなくなってしまうこともあるため、相手の気持ちを理解し、共感することが必要です。そして、手を差し伸べる、助ける、優しい言葉や励ましの言葉を掛ける、話を聞く、黙ってそばについている、見守る等、相手が今何を望んでいるのか推し量り、行動に移すことが大切だと私は思います。このような力を身に付け、相手の立場や状況に応じて寄り添うことができる「思いやり」のある子どもたちになってほしいと考えています。

そのために、教育活動全体で人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」を、子どもたちが身に付けられるよう人権教育を要として、一人一人の自己肯定感を高めるよう進めていきます。そして、各教科等の学習を通して基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、様々な道徳的価値観を考え、身に付けるための道徳教育の充実、コミュニケーション能力を向上させるための特別活動、学級活動の充実を図っていきます。

全ての児童が安心して過ごせる優しく思いやりのあふれる「やさしい学校」を目指します。今年度も変わらぬ御支援と御協力を、どうぞお願い申し上げます。